

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月16日

事業所名:コラボいなぎ いなぎこども発達支援センター

	No.	チェック項目	%	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	89%	グループ療育の利用人数が多いときは玄関や個別療育室も活用している。部屋は狭く感じるが構造化することで過ごしやすくなるようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	89%		送迎対応に職員人数がとられている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	89%		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	78%	日々の清掃に加え年に2回職員による大掃除を実施している。	清潔は心掛けているが落とし切れないシミが床にあり、きれいに見えないため、マットの買い替えの検討を行う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	89%	年度ごとに事業計画を作成し、半期ごとに振り返りをしている。年度末の会議では、改善した点、改善が必要な点を職員間で話し合っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%	第三者評価機関による利用者調査を実施している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	44%	第三者評価機関による利用者調査実施後、職員に周知し話し合っている。又、保護者の方にも書面でお渡ししている。保護者会でも口頭で説明している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	100%	同上	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%	内部研修・外部研修、eラーニングの活用等で確保している。年6回事例検討を行い、全体で支援について話し合う機会を設けている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	100%	アセスメント表を用いて発達ニーズ、保護者のニーズを分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	89%	1人につき年に1回程度発達検査を実施している。	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月16日

事業所名:コラボいなぎ いなぎこども発達支援センター

No.	チェック項目	%	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画は、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	78%	【家族支援】【地域支援】の内容は支援計画に盛り込んでいる。	【家庭支援】の内容について、小項目にして明示するか検討する。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	89%	支援記録には個々のねらいが記載しており意識して振り返りができるようになっている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	89%	クラス会議で検討している。 クラス担当が主な立案をしチームスタッフに確認している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%	個々のクラスや個々の発達状況に合わせて活動プログラムをその都度考えている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	89%	子どもや保護者のニーズに合わせて、個別活動と集団活動を組み合わせている。 集団活動でも場合によっては2つのグループに分けて行う等し、工夫している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	89%	毎朝その日の支援のポイントや活動の打ち合わせ時間をとっている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	89%		送迎業務や事務作業などの様々な業務がある中で、打ち合わせ時間、振り返り時間、記録時間を効率よく丁寧に実施できるよう、記録の書式内容の見直しや役割分担について検討していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	89%		
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	78%			

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月16日

事業所名:コラボいなぎ いなぎこども発達支援センター

	No.	チェック項目	%	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	78%	稲城市はセルフプランの方が多く、計画相談の方もサービス担当者会議を実施することがほぼ無い。必要に応じて実施する場合はある。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	67%	保健センターからの紹介で相談に来られる方が多いが、必要に応じて保護者の同意を得た上で連絡し合い状況を確認している。 年に1度は、保健センター、障害福祉課、事業所等と連携会議を実施している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			
関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連携体制を整えているか			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%	頻度は少ないが行っている。 園訪問や担任の先生と話し合う機会を設けている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	78%	就学支援シート等を作成し、引継を行っている 特別支援学校に入学される方には学校の先生と直接引継ぎを行っている	支援学級に入学するお子さんについて、直接先生との引継を行うか必要に応じて検討していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100%	複数の事業所を利用している方は事業所間で児童発達支援計画の元に情報共有している	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	22%	近隣の保育園に園庭を借りることはあるが子ども同士の交流はほとんどない。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか	33%	稲城市には自立支援協議会子ども部会を実施していない。 要保護児童対策協議会、いじめ防止対策協議会に参加している。	市内の情報をスタッフが得られるように稲城市の広報誌を回覧する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	連絡帳に様子を書いている。 療育終了時に様子を直接伝えている。	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月16日

事業所名:コラボいなぎ いなぎこども発達支援センター

No.	チェック項目	%	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	33%	プログラムは行っていないが個別に相談する機会を設けている。相談があった保護者とは意見交換や話し合いをするようにしている。		
保護者への説明責任等	32	運営規定、利用者負担について丁寧な説明を行っているか	89%		パンフレットには料金説明がないので、分かりやすいものに改定する。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、それに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	100%		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	常時希望があった場合に相談に応じている。園訪問後には面談を実施している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%	保護者会や勉強会、交流会等実施している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%		
保護者への説明責任等	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	年間行事や月案、月だよりを配布している。	
	38	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	89%		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	22%		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月16日

事業所名:コラボいなぎ いなぎこども発達支援センター

	No.	チェック項目	%	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	78%		半期に1回、防犯や感染症マニュアル、怪我対応マニュアル等に基づいて訓練する 避難訓練について、おたよりに掲示し周知する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	89%	避難訓練を月1回程度実施している。 職員体制の都合等でできていない時があるが可能な限り行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	89%		登録票に記入欄を設けていたが、事業所で発作発生後に状況を知ることがあった。登録票を使用しやすいものに改定する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	78%		登録票には食物アレルギーの有無の記載欄を設けているが、医師の指示書を作成していないため、医師指示書を使用する。服薬対応について検討する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	78%	アクシデント・インシデントが発生した場合には記録にとり、必要に応じて改善点を考えている。 月1回の会議でアクシデント・インシデント内容を報告・周知し、改善点を話し合っている。	ヒヤリハット事例集を作成しているがスタッフ間で周知できていない部分が見られるため、ヒヤリハット事例集を更新した上で、スタッフ間で周知する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	権利擁護に関する内部研修を実施している。 オンブズマンが年に3回程度来所し、権利擁護の観点から支援の振り返りを行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	56%	これまで身体拘束を行う場合がなかった。	